

目的 Gold-QPD 鍼灸師：直近の動向から学びとる将来への期待

アンケート調査の結果（三焦鍼法の応用病態 vs 鍼灸師割合 vs 治療効果）

群	主症状	分野	実施した 鍼灸師の割合	治療効果	
				明白	断定不能
A	疼痛・シビレ・冷えなど老年症候群	老年症候群など	79%	68%	32%
	抗がん剤、放射線照射などの後遺症	虚証の各種病態	74%	69%	31%
B	自律神経失調（パニック・不安）	メンタル関連 の疾患群	68%	66%	34%
	うつ傾向・うつ病・双極性障害		65%	68%	32%
C	もの忘れ・認知症・BPSD（# 1）	認知症関連	65%	（# 1）	
D	脳神経障害（脳卒中を含む）	脳卒中後遺症	41%	50%	50%
E	コロナ後遺症（倦怠感・五感障害など）	未開拓領域	16%	50%	50%

結語

今回のアンケート結果と、新宿漢方クリニックでの総合的体験によれば

- メンタル疾患早期症状スペクトラムが出現したら、向精神薬の使用前に三焦鍼法を実施するのが望ましい。  
自律神経失調症は比較的速やかに改善される。うつや双極性障害なども陰陽の揺らぎが小さくなり軽快する傾向がみえる。
- 治療効果を高める最大の秘訣は、患者さんの悩みにしっかり向き合い、納得のゆく治療の説明をすることにある。
- それには、施術者自身がメンタル疾患（認知症を含む自律神経失調症・うつ・双極性障害など）の実情を理解し、説明能力を高めておく必要がある。（「鍼灸ルネサンス」と、YouTubeに掲載された多彩な映像が参考になる。）
- 臓器病因論がほとんど未開拓の精神科に対し、中医学の気分・意識・認知などに関する医療哲学は、面白くも十分に説得力を持つ。  
三焦鍼法は五臓の上・中・下焦の生命力を蘇らせ、脳血流を上昇（SPECT）させて気分を落ち着かせる。  
三焦鍼法は脳神経細胞の増分化を促す。関与する遺伝子の活性化とタンパク産生についても医学生物学的に証明されている。  
さらに六腑としての三焦（自律神経系腹腔神経叢と見なす説もある「鍼灸ルネサンス」 p165）が調整能を発揮するといわれる。  
これらの事実からも三焦鍼法がメンタル疾患治療に貢献ができるものと想定できる。（「鍼灸ルネサンス」 p115を参照）
- Gold-QPD 鍼灸師は、向精神薬の欠陥を補う「三焦鍼法による代替補完療法」が実践できる選ばれた鍼灸師である。  
自分たちに与えられた特別の技術で、未明のメンタル疾患医療界に分け入り、積極的に貢献してゆくべきでしょう。

## 謝辞

アンケート調査に協力して頂いた下記の Gold-QPD 鍼灸師に御礼申し上げます。

岩村 有子、江川 聡、海老澤 武士、大木 千穂、越智 富夫、加藤 真二、加藤 朋子、河合 由昭、川上 泰弘、神林 秀彰、  
小泉 博幸、齋藤 恵美子、酒井 優子、佐川 聖子、島田 直浩、白川 英子、鈴木 敬太、高木 真弥、玉井 秀明、利根 貴志、  
戸谷 功治、中村 浩積、中村 真通、中山 純一、根岸 清人、野原 隆博、橋口 和行、橋口 知光、橋本 美貴恵、長谷川 聡、  
方 誠燦、平野 木代衣、松田 直哉、宮本 泰之、村橋 健三、森 勇樹、山内 晶子、山中 直樹、山本 優生（アイウエオ順）

参考 基本教材 Gold-QPD による「**鍼灸ルネサンス**」 - 認知症・健康長寿・三焦鍼法 -

編著者 川並 汪一

(株) 国書刊行会 2022 年 4 月 19 日発行